

じんじんの技術士への道（建設部門編）

・私の紹介です

じんじんと申します。大学を卒業して平成14年から奈良県の某小規模市役所に勤務する土木技術職です。二次試験は、3回目の受験で突破（合格時の年齢は36歳）できました。部門と専門科目は「建設部門（施工計画、施工設備及び積算）」です。

そもそも技術士という資格を知ったのは、大学の研究室の指導教授が技術士（建設部門）を取得しておられたからです。

「技術者ならいずれ技術士を目指す時が来るだろう！」っと熱く語られましたが大学生の私は、軽く聞き流していました。公務員を目指している自分が技術士を目指すなんて想像していませんでした。

技術士を受験する前段階としまして私の直属の上司がゼネコンさんからの公務員に転職された方で一級土木施工監理技士を取得されていました。

自分の勉強にもなるから一級土木施工管理技士を目指せばどうだ？っといわれて受験するための実務経験年数をこなして受験しました。

一級土木施工管理技士 2回目の受験で合格しました。

技術士を目指すきっかけですが、一級土木施工管理技士を取得して技術屋さんのスタートラインに立てたとその時点では、正直結構満足していました。

でもコンサルに就職した大学の同級生と忘年会をしていた時に技術士第一次試験を受験してるという話を聞きました。

そういえば、大学の教授もいつかは、技術士目指す時が来るよって言っていたなっと思い出しました。

土木施工管理技士の試験勉強で専門はそこそこ勉強していると思っていたので、基礎科目と適性科目を追加で頑張っって一度受けてみよう！って軽い気持ちでした。

平成19年 技術士第一次試験 :合格 1回目の受験で合格

一次試験は、やる気と気合いで何とかなりました。（基礎科目は、てこずりました…。）

その時は、一次試験通るなら二次試験も何とかなるのかなって感じでした。

でもその後二次試験の勉強を始めてその差に愕然としました…。

平成23年

いつまでも見送っていてもしょうがない、まったくだめでも今年は、二次試験受験しよう！と

決断。

何から進めていいか分からなかったので目標物になるものを探しました。そして一次試験の時に参考にしたSUKIYAKI塾のHPを確認すると技術士の講師の方がボランティアで受験指導(添削指導)していただけました。右も左もわからない状態でしたが、出願講座の申込日初日に受験申込書からの出願講座を申込みました。

そこで講師の勘介さんこと神下氏(勘介Caféの主催者さんです)と出会いました。

受験経歴添削と筆記試験対策で言われたことは、課題と問題点の意味をまったく分かっていない!そこが一番大事なんです。成果じゃなくてどのように考えて最短ルートで最適解を求めるかが大事なんです…。

なんども言われましたが、正直試験当日まで確固たる自信は、湧きませんでした…。

私が参加していた勘介カフェは、講座後懇親会があります。この懇親会は、受験生同士の情報交換や講師で来ていただいている先生方と受講生がお酒を飲みながら試験とはまったく関係ない話や、技術士の勉強の進め方、技術士への熱い思いを語り合う時間でした。この懇親会は、私には非常に有益な時間でした。

筆記の模擬試験は、徳島県技術士会で受験しました。(当時高速道路1000円制度があったので出願講座、筆記講座も受講)

・初受験の受験後

受験後は、ため息しか出ませんでした…。規定枚数を記述するには記述したんです。

この敗北感、今までの試験で経験したことのない感じでした。でもこれが現実でした。

でもなぜか結果発表が近づいてくるともしかしたらとまったく根拠のない期待が湧いてきました…(笑)。

初受験は、BB判定でした。しかもC判定でなく白紙答案なしで乗り切った。これは、不合格ながら自信となりました。

平成24年

この年は、APECさんのマンツーマン講座と勘介Caféを中心に進めていきました。

筆記講座は、SUKIYAKI塾東京も受講しました。(所用で大阪のAPEC-semiの講座に出席出来なかったので往復夜行バスで東京に行きました。)

SUKIYAKI塾東京の講義を受講した後に勘介Caféでお世話になっている神下氏にお声がけいただき、講師の方と一緒に懇親会に参加させていただきました。

技術士になれば、普段絶対出会わないような業界の様な方々と一緒にグループで活動できるんだ!って技術士は、人脈の拡大って面でもメリットがあるんだなっと思いました。

昨年より勉強は、順調に進んでいたと思います。でもやはり「課題、問題点の抽出が甘い」との事でした。でも建設一般については、なんとなくイメージが湧いてきました。

・第2回目の受験

昨年より記述できた気がしました。でもやっぱり専門科目がいまいちだった気がします。

合格発表の当日朝6時ごろ技術士会のHPを確認しましたが、私の受験番号は、ありませんでした…。

今年もB B判定、成長したB B判定なのか成長の無いB B判定なのか分かりませんでした…。

平成25年

技術士第二次試験の試験制度が変更になりました。

大きな変更点は、

建設一般（必須Ⅰ）が論述から択一へ変更

専門試験（選択Ⅱ、Ⅲ）解答数の2倍程度の問題数とする。私の受験した施工計画は、平成24年度まで15～16問出題されていました。この変更により2問解答なら4問の出題となり選択の余裕がなくなりました。

特に専門科目（選択Ⅱ、Ⅲ）にウエイトをおこななければならない状況でした。

勘介 Caféと平成25年度に発足されたSUKIYAKI 塾大阪の講座にも参加しました。

それ以外の大きな変更点は、経験論文が無くなりその代りに受験申込書と同時提出の720字の業務内容の詳述（以下：小論文）が、新設されました。これは、最初の関門です。

はっきり言って最初から720字でまとめるのは、無理です。ひとまず思うだけ書き出してそこから大事なところを抽出するっという方がいいと思いました。細かいところは、口頭試験で直接説明すればいいだろうっの方針で進めていきました。

（ただし口頭試験では、私は小論文についての説明の時間が与えられましたので、詳述説明時に補足の説明をする事ができました。でも詳述説明の時間が与えられなかった。補足説明しようとしたら補足説明は、いいです。と試験官さんに言われた受験生もいたという情報もききました。）口頭試験に向けて完成度の高い業務の詳述が必要だと感じました。

・筆記試験対策

必須は、過去問とSUKIYAKI 塾名古屋手羽先の会の択一对策問題集と市販の択一式対策問題集を購入して勉強しました。

選択問題（Ⅱ・Ⅲ）は、勘介 Caféの添削指導とSUKIYAKI 塾大阪の添削指導講座で基礎・応用問題（Ⅱ）より課題解決問題（Ⅲ）を中心的に進めていきました。

建設部門の課題解決問題（Ⅲ）は、今の社会の方向として維持管理がこれから重要になると施工計画の技術者ならどのように維持管理を進めていきますか？ってことを中心に勉強を進めていきました。

選択問題（Ⅱ）に関しましては、入庁以来、ずっと下水道課に配属だった私の経験では、大規模掘削やコンクリートの専門的な問題は、合格論文を書くだけの対応できないと思いました。よって入札制度（総合評価落札方式、施工パッケージ方式等）、資金調達方法（PFI等）、リサイクル、施工計画にかかる一般的知識について勉強しました。

キーワードは、国交省HPから通達や重点政策等をチェックしてインターネットで気になる言葉を調べました。

実際の試験ですが、記述するスピードも必要になってきます。私は、そこそこ読める字で600字1枚当たり約20分かかります。

細かいことですが、自分の記述スピードがどれくらいかを事前に知っておく必要があります。（①丁寧に書いた時、②そこそこ読める字で書いた時の2パターン）

この年の施工計画の選択Ⅱの試験時間は、2時間で600字4枚記述でした。そして配分は、1枚記述が2問、2枚記述が1問でした。私の記述スピードでは、20分×4枚なので1時間20分かかります。受験番号・受験部門等の記述、構成、見直しに使える時間は40分しかありません。これは、結構厳しいです。

逆に選択Ⅲの試験時間は、2時間で600字3枚記述だったので、記述に60分、受験番号・受験部門等の記述、構成、見直しに使える時間は60分なので比較的余裕がありました。

ちなみに各問題に対する解答枚数は、きっちり確認してください。解答枚数を間違えると失格だそうです。

受験前は、どのような枚数配分で出題されるかもわかりませんでしたし、試験問題見た瞬間に試験が終わってしまうかも…って危機を感じながら勉強していました。

・第3回目の受験

試験問題：建設部門（施工計画、施工設備及び積算）では、

必須Ⅰ 過去問そのままが出題された問題結構ありました。

選択Ⅱ ①工程管理、コンクリート系、掘削系、資金調達（4題から2題選択 各1枚合計2枚）

選択Ⅱ ②コンクリート、産業廃棄物系（2題より1題選択 2枚）

選択Ⅲ 維持管理系、安全管理系（2題より1題選択 3枚）

平成25年度は、この様な出題でした。

選択Ⅲの課題解決問題の維持管理は、勘介Caféの練習問題で同じような論文を練習してきたのでしっかり記述していました。

選択Ⅲは、いままでの受験で一番の出来だったと思います。ただし選択Ⅱ①、②については、微妙な感じでした。しかし総じてそこそこの出来だと思い会場を後にしました。

家に帰ってから忘れる前に口頭試験の試問対象になる選択Ⅲの復元に取り組みました。

それから仕事の合間に結果どうだろう…どういう風にかければよかったんだろう…って考える程度でした。

・筆記合格発表日

10月31日、午前2時ごろまで技術士会のHPを見ていましたが更新されなかったので睡魔に負けて寝ました。午前5時30分目が覚めてPCの電源を入れて技術士会のHPを確認。何回も確認して早朝に渾身のガッツポーズ！試験結果でここまで熱くなったのは、生涯初でした。

必須（Ⅰ）22／30、選択（Ⅱ）B、選択（Ⅲ）A、選択総合（A） 結果：合格
口頭試験日程 12月某日 午後から 試験日は、土日とっていたらまさかの平日！！

・口頭試験対策

模擬口頭試験は、最終的に4回受講（徳島県技術士会、SUKIYAKI 塾大阪2回、勘介Café）しました。それ以外に勘介Caféで知り合った有志が集まった受験生同士での模擬口頭試験やお互いの気になるところの意見交換を2回実施しました。

複数回の模擬口頭試験は、絶対必要です。それと模擬口頭試験試験官さんの了解を得てICレコーダーで自分の模擬口頭試験を録音しました。これを聞き直すと想定内問題の時は、スッと大きな声で答えて、微妙な時は、声が段々小さくなるか無意識の口癖（えーっと…等）に気づかされました。

・口頭試験前日入り

平成24年にSUKIYAKI 塾東京の講義に参加したときにフォーラム8の位置を確認していましたが、再度チェックに行きました。道玄坂ルートと渋谷マークシティ通り抜けルートの2ルートを確認しました。

ちなみに道玄坂の歩道は、石畳なのでキャリーバック引きにくいです…。その点マークシティルートは、エスカレーターもあり快適です。当日は渋谷駅玉川出口からマークシティルートで行くことを決定しました。ちなみに道玄坂ルートは、ハチ公口改札が便利です。当日の荷物は、最低限だけ持って宿泊したホテルに預けました。

口頭試験の内容は、詳細は、別途まとめていますので今回は割愛します。
全体の試験時間は17分（入室時と出室時に時計を見ました。）

新幹線に乗るまでの間で口頭試験の復元を作成しました。

口頭試験は、適度な緊張感で受験でき真っ白になる事はありませんでした。

おおよそ試問と回答については覚えていたので意外と冷静に受験していたと思います。

・最終合格発表

3月3日午前1時までHPにアップされず。睡魔に負けて就寝。
午前2～4時に何度か合格してる夢をみて目が覚める。(最後は、みんなにお祝い言われてる夢まで見ました笑)。午前6時頃HPに発表されたらしい…が熟睡中。
午前7時目が覚める。HPを慌てて確認自分の受験番号を発見！！
夢で何度も合格の予行演習してたので少し感動が薄かった気がしました…。
ちなみに筆記試験発表の数日前から筆記不合格の夢を見続けていました…。
だから感動は、筆記合格の方が大きかったかもしれません。

特に優秀な技術者が技術士になると思う人がいるかもしれません。確かにそういう技術者の方がいるのも事実だと思います。でも少なくとも私は、夜間大学卒で輝かしい研究成果や大きなプロジェクトの施工実績があるわけでもありません。しかも某小規模自治体の土木技術職員ですが、無事に合格できました。

・モチベーション維持

長丁場の技術士試験は、モチベーションが下がる時があると思います。その時には、なぜ技術士になりたいの？なぜ技術士って看板があるの？っていう原点に戻って考える時間をたまに作ってください。

後は、仕事が忙しいとか家庭の事情で勉強に集中できない時もあると思いますが、やる気とあきらめない気持ちでモチベーション維持をはかるって下さい。そうすれば結果は、後からついてきます。

適時セミナー等に参加してペースメーカーにするのもいいと思います。

最後になりましたが、APEC さんこと鳥居氏、勘介さんこと神下氏、SUKIYAKI 塾大阪代表ベッコ王子さんこと古田氏をはじめ御指導いただきましたすべての講師の皆様、一緒に勉強してきた受講生の皆様、協力していただいた職場の方、ありがとうございました。試験を受験するにあたり色々協力と我慢してくれた妻に感謝します。

今後は、総監（建設 - 施工計画）、上下水道部門（下水道）の取得を目指します。…って思っております。

受験体験記は、以上です。

長文読んでいただきましてありがとうございました。